

藻類学研究室

教員名：飯間雅文

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

私たちの研究室では、陸に植物が上陸するよりはるかな昔から水中に生育し、光合成によって有機物を合成し、酸素を放出し続ける、地球上の生命史の生き証人『藻類』を研究対象としています。

(1) 長崎市周辺各海岸域における海藻フロアの変化

(2) 絶滅危惧種淡水紅藻オキチモスクの通気培養による直立体形成の試み

野母崎、手熊、弁天白浜の3海岸では、いずれも17年前に環境科学部1期生が調べて以来、継続的に海藻フロア調査が行われています。過去と比べて近年、磯やけ（海の砂漠化現象）の影響で、生育している海藻種数は激減しています。磯やけは、海水温の上昇により、海藻を食べる藻食魚が南方海域から北上してきているためと考えられます。海の中でも地球温暖化の影響が現れているわけです。この現状を把握するため、海藻フロアの調査（どんな種が生育しているかリストアップする調査）が必要となります。これは地球温暖化の指標になる調査です。

(2) の絶滅危惧種淡水紅藻オキチモスクは、環境省レッドデータリスト絶滅危惧Ⅰ類に挙げられている希少藻類で、愛媛県、福岡県、長崎県、熊本県、鹿児島県、沖縄県のごく限られた小河川にしか生育していません。そのオキチモスク藻体を室内培養で直立体まで育て上げる試みを続けています。



絶滅危惧種淡水紅藻オキチモスク



繁茂する海藻ヒジキ・ワカメなど

● 先輩はどんなところに就職しているの？

環境コンサル業、運輸業（JR九州など）、観光産業、小売業、製造業、公務員（長崎市役所、宮崎市役所、山口県庁など）などの実績があります。